



武庫川シンポジウム

川がもすぶ人と地域

と き

6月17日 (日)

13:30 ~ 17:00

ところ

室塚アピアホール

主 催

武庫川流域委員会

兵 庫 県

プログラム

◇オープニング **合唱組曲「武庫川2006」**（映像再演）
「武庫川めぐり水コンサート」（2006年11月23日）から

◇基調講演 **『川を育てる、川に育てられる』**
河合 雅雄 さん 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長、京都大学名誉教授

◇流域委員会からの提案 **『川がむすぶ人と地域』**～流域連携の推進に向けて
武庫川流域委員会委員長 松本 誠
(映像構成「武庫川散歩」 武庫川流域委員会委員 伊藤益義)

(休憩)

◇パネル討議 **『流域連携による川づくりをどう進めるか』**
パネリスト： 吉村 伸一 さん (株)吉村伸一流域計画室代表取締役
横山 正 さん 千種川圏域清流づくり委員会ネットワーク部会長
新見 幾男 さん 矢作川漁業協同組合長
蔵治 光一郎 さん 東京大学大学院農学生命科学研究科付属愛知演習林講師
コーディネーター： 松本 誠 武庫川流域委員会委員長

合唱組曲「武庫川」について

武庫川下流の西宮市にある武庫川女子大学音楽学部の武庫川社会音楽研究会が企画し、武庫川流域にある上・中・下流の4つの小学校児童が創作した詞に曲を付けた合唱組曲をつくり、児童と学生が歌声で交流を試みた。2005年11月23日に同大学の上甲子園キャンパス甲子園会館ホールで第1回の「武庫川めぐり水コンサート」を開催、約170人が歌声を響かせた。子どもたちは総合学習の時間を利用して武庫川についてさまざまな視点から調査研究に取り組み、歌詞を創作した。ピアニストの谷川賢作さんが作曲、同研究会の畑儀文教授と学生が各小学校に出向き合唱練習を重ねて発表に至った。本日映像で再演するのは昨年11月23日に行った第2回コンサート。参加したのは篠山市立古市小学校、三田市立広野小学校、宝塚市立美座小学校、尼崎市立武庫北小学校の4校児童。当日は4つの小学校児童による武庫川の歴史や自然の研究発表や、赤とんぼの合唱も行われた。

基調講演

河合雅雄 さん 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長、丹波の森公苑名誉理事長

1924年、兵庫県篠山町生まれ。京都大学理学部動物学科卒業。京都大学霊長類研究所教授、所長を経て(財)日本モンキーセンター所長、京都大学名誉教授。世界的な『サル学』の権威。少年期の自然との深いつき合いを支えてくれた篠山をこよなく愛し、子どもの教育、森林文化に強い関心を持ち、森林と生物多様性保護の活動を精力的におこなっている。「ゴリラ探検記」「少年動物誌」「人間の由来上・下」「小さな博物誌」など著書多数。篠山市在住。

パネル討議

パネリスト

吉村伸一 さん (株)吉村伸一流域計画室代表取締役、技術士

1948年生まれ。室蘭工業大学土木工学科卒業。横浜市役所を経て98年に独立。80年代初めから横浜市のいたち川や和泉川で都市河川の自然復元事業や周辺の森や農地を取り込んだ水辺整備事業などに取り組む一方、よこはまかわを考える会やNPO全国水環境交流会に参画し、市民と行政の協働に向けた活動をしている。「和泉川東山の水辺・関ヶ原の水辺」の設計で2005年土木学会デザイン賞最優秀賞受賞。「自然環境復元の技術」「川・人・街一川を活かしたまちづくり」(共著)などの著書がある。

新見幾男 さん 矢作川漁業協同組合長、矢作新報社社主・編集長

1937年、豊田市生まれ。岐阜大学農学部卒。豊田市役所、新三河タイムス社を経て1984年に矢作新報社を設立し週刊新聞を創刊。編集長として健筆をふるう一方、理事を務めていた矢作川漁協は2003年に創立100周年を記念して1127名の組合員の意思として「環境漁協宣言」を採択し、河川環境と水産資源の慢性的な停滞を打開し、流域に豊かな内水面漁業を提供する7つの指針を掲げる。豊田市矢作川研究所、矢作川天然アユ調査会、矢作川学校など流域連携へ多彩な活動を展開している。

横山正 さん 千種川圏域清流づくり委員会ネットワーク部会長
兵庫県立西はりま特別支援学校教諭

1961年、上郡町生まれ。大阪教育大学で淡水魚ニッポンバラタナゴの生態研究。学習塾に務めたあと県立福崎高校、佐用高校で生物担当教諭。兵庫教育大学大学院で淡水魚ハゲギギの生活史研究とともに、原体験教育の学校教育および地域での社会教育への取り入れに取り組む。2000年から3年がかりで発足させた千種川圏域清流づくり委員会は、当時の流域2市8町の住民と自治体職員が連携し、河川管理者の県民局と二人三脚で流域連携と川づくりめざし四季折々のイベントに取り組んでいる。

蔵治光一郎 さん 東京大学大学院農学生命科学研究科付属

愛知演習林講師

1965年、東京都生まれ。東京大学農学部林学科卒、同大学院博士課程在籍中、海外青年協力隊員としてマレーシア・サバ州森林局森林研究所に勤務。東京大学助手、東京工業大学講師を経て現職。日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト「青の革命と水のガバナンス」研究グループ長を務める。矢作川流域で「森の健康診断」、球磨川流域で「不知火海・球磨川流域圏学会」を立ち上げ、市民主導の流域連携運動と研究者の協働を実践中。

コーディネーター

松本 誠 武庫川流域委員会委員長。市民まちづくり研究所所長

1944年、明石市生まれ。神戸新聞社で記者活動の後、同社の情報科学研究所副所長、編集局の調査研究資料室長を経て退職。関西学院大学、桃山学院大学、神戸学院大学などで非常勤講師を務めながら、まちづくりや市民活動のアドバイザーなどを務める。明石まちづくり研究所代表幹事、自治・分権ジャーナリスト関西の会事務局など分権自治活動にも取り組んでいる。

